



再選を果たしたガンダム・レイクセブ町長の招きで、町の体育館に集まった SCMSI カレッジ・地域開発科 4 年生。町役場はカレッジ生の主要な就職先の一つです。(右・ガンダム町長)



2022 年 7 月 25 日発行

NPO 法人ビラオンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

郵便振替口座 00210-5-72693

加入者名：ビラオンの医療と自立を支える会



住民や国民の意思が、よよいよ政治や平和構築に繋がる情報のツール

— 続くロシアによるウクライナ軍事侵攻、5月実施のフィリピン統一選挙結果を受けて —

「タンパカン町での露天掘りが解禁になってしまった！これを歓迎するビラオン人もいるので、環境破壊につながる露天掘りノー！のキャンペーンを急ぎたい。パンフ作りのため、苗木用支援金の一部を流用してよいか」

フィリピン統一選挙終了間もない5月20日、ボルールの住民組合TBAのボニファシオからメールが届きました。10年前の露天掘りストップのため行動した神父たちもすでに反対の声を上げているということでした。

私たちのパートナーCMIPを含む各種市民グループや一部ビラオン人による抗議活動の成果として、10年前に凍結となった銅鉱などの露天掘り。その解禁は、今回の州議会選挙を通じて示された民意の一つといえますが、ほどなくして「再選された州知事が拒否権を行使して、議会の決議を覆し、露天掘り禁止措置は今後も継続！」という続報が届きました。議会と首長、どちらも選挙を通じて民意を代表しながら、銅鉱の露天掘りに関しては、首長の決定が優先されて最終的に禁止となったことは、ビラオンとかかわる私たちには朗報でした。

サウスコタバト州タンパカン町はもともとビラオン民族が多く居住していた地域です。10年前までは銅鉱開発のサギタリス社が操業していて、その撤退を求めて、教会やビラオン住民が露天掘り反対キャンペーンを続け、まさに10年前の本会報70号P1では、横断幕を掲げたデモの写真を皆様と共有させていただきました。

反対運動の一方で鉱山会社の恩恵を受けていたビラオン人もいて、同じ会報では、サギタリス撤退で失職、窮地に陥った元カレッジ奨学生2名の紹介もしています。

フィリピンの選挙、国政レベルではマルコス氏が2位以下に倍以上の差をつけて大統領に選出されました。圧勝は動画配信を含むSNS活用によるといわれています。1986年の民衆革命で失脚するまで、約20年にわたり独裁的強権的統治を続けた父親・マルコス元大統領を知らない世代に向けてのSNS発信が功を奏したようです。

前109号本欄では、今も続くロシアによるウクライナ武力侵攻に関連して、国連を含む国際社会がプーチンを止められない中、頼りはロシア国民の賢明な判断、意思表示であること。プロパガンダのツールであるテレビや新聞などのマスメディアではなく、SNSによる情報活用への期待を記しました。また、フィリピンの選挙でも同じくSNSを活用して賢明な選択をしてほしいと書きました。

上記のように、悪名高いマルコス元大統領を知らない世代が、SNS活用のマルコス2世を支持したという結果を受けて、世代間ギャップが大きいSNS活用も万能ではないことに改めて気づかされました。情報のファクトチェックが課題のようです。

一方、レイクセブ町の首長選挙では、辺境の初等教育普及に尽力のアニータ先生が懸念したような金銭にまつわる混乱もなく、SCMSI学長の夫ガンダム氏が再選を果たしました。ガンダム町長の前任フンガン氏は非先住民族ですが、SCMスタッフとして長くチボリの教育に関わり、その前任ロコ氏はチボリ人でした。人口の6割を占めるチボリ民族が町の首長に選出されるのは民意の反映といえます。再選されたガンダム町長には、辺境のチボリやウボ民族の各種ニーズにも十分配慮した施策の展開に期待したいと思います。(山崎)